

事業名	固定資産税課税事務
-----	-----------

総事業費	5,016 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	健全財政運営の推進
	基本事業名	財源の確保

② 実施 (Do)

事業の意図	公正・適正な課税を行う。	
事業の実績 と 成果	取組内容	異動を的確に反映し、実地調査や固定資産税支援システムを活用した継続的な調査により課税対象となる固定資産への適正な課税を行う。
	成果	課税対象となる固定資産への課税の適正化を図ることで、財源の確保へ繋げた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	G I S (地図情報システム) や家屋評価システムを活用した固定資産税支援システムの制度の向上とシステムを取り扱う職員の知識の習得や技術の向上が必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	事務事業見直し結果により令和3年度から事務事業マネジメントシート→簡易シートへ

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	実地調査や固定資産税支援システムを活用した調査により課税対象となる固定資産税を的確に把握し、公平公正な課税を行う。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	家屋全棟調査事業
-----	----------

総事業費	15,836 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	健全財政運営の推進
	基本事業名	財源の確保

② 実施 (Do)

事業の意図	固定資産税の課税客体となる家屋を的確に把握し、公平・公正な課税を行う。 (課税漏れであれば新たに課税する。滅失漏れであれば滅失処理を行う。)	
事業の実績 と 成果	取組内容	令和2年度末時点で、評価漏れの可能性がある建物6,243棟、滅失漏れの可能性がある建物1,096棟あることが判明。3年度・4年度に税務課保存の家屋平面図と照合し、特定作業を行っていく。
	成果	日頃から「新增築・解体の場合は連絡を」と広報しているが、漏れが相当あるということが分かった。当初想定していた事業量より増加しているため、調査の結果を課税に反映させるためのマンパワーが不足するのではと懸念している。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	日頃から「新增築・解体の場合は連絡を」と広報しているが、漏れが相当あるということが分かった。当初想定していた事業量より増加しているため、調査の結果を課税に反映させるためのマンパワーが不足するのではと懸念している。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	一次調査も早期に実施でき、順調に事業が進んでいるが、評価漏れ、滅失漏れの可能性がある家屋が当初想定より多く、事務量の増加が懸念される。

④ 改善 (Action)

2021年度方向性	特になし。
-----------	-------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	ふるさと納税推進事業
-----	------------

総事業費	92,356 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	健全な財政運営の推進
	基本事業名	財源の確保

② 実施 (Do)

事業の意図	自主財源確保のため、本市へのふるさと納税（寄附）額を増やす。	
事業の実績 と 成果	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に係る体制が強化され、「ふるさと納税」につながるまち（にしのおもてし）の魅力や返礼品・特産品のPR活動及び情報発信を昨年度に引き続き積極的に行った。 寄附の増額を図るため、令和2年12月に既設の納税サイトふるさとチョイス・楽天に加え、JALふるさと納税を導入した。 高額寄附返礼品や定期返礼品を増やし、寄附件数1件あたりの増額に努めた。 前年度の寄附者に対し、新規返礼品が掲載されたカタログやふるさと納税で実施した事業実績報告書等を送付するなど、今年度も継続しての寄附につながる取組を行った。 全国的に知名度の高い「安納いも」をはじめとした魅力ある地場産品・特産品・農林水産物に加え、新たに「種子島バター・牛乳」、「種子島高校生物生産科の加工品」、「島バナナ」、「種子島の焼物・陶器」、「フリージア」等の地域の特色を生かしたものを新たに返礼品に加えた。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 過去最高寄附額の令和元年度・156,158,100円を上回る寄附額183,767,783円を達成した。 令和2年度は種子島全土で発生したサツマイモ基腐病の影響で前年度に比べ安納芋の収穫量が激減したため、安納芋を返礼品とした寄附の申込みも半減した。これにより年間寄附総額の減額が懸念されたが、安納芋以外の地場産品・農林水産物を返礼品化することで、年間寄附総額を向上させた。安納芋に偏らない魅力ある返礼品のラインアップとなったことで、寄附申し込み時の返礼品選択における「安納いも」関連返礼品の割合が約70%から約52%へと減少した。 安納いも(加工品含む)以外の返礼品の企画・開発については、種子島産生乳で作った牛乳とバター、種子島高校生が作ったジュースと加工品、フリージア等を新返礼品に加え、魅力・人気となる返礼品の増加と質の充実を図った。特産品協会等との連携により、事業者数は11業者増え41、返礼品数は204か250となった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度はサツマイモ基腐病・長雨・台風の影響により、安納いもに関する苦情が例年になく多く、これまで築き上げた「安納いものブランドイメージ」が損なわれた。関係機関と連携して出荷までの管理を徹底し、安納いものブランドイメージの回復を図りたい。 種子島全土で発生したサツマイモ基腐病の影響で令和3年度以降の「安納いも」の作付面積・収穫量の減少が予想されることから、返礼品が「安納いも」に偏らないよう地域の特色を生かした魅力ある返礼品の企画と内容の充実をより一層図る必要がある。 安納いも基腐病対策による代替作物については、事業者支援と販路拡大の観点から関係機関とも連携し、積極的に返礼品として採用していきたい。 返礼品として人気の「安納いも・生いも」の収穫量や発送終了時期が寄附額に大きく影響することから、一定数量の確保と貯蔵技術のある事業者と連携・協力し年間発送ができる体制づくりを急ぎたい。 ふるさと納税の対象となる地方団体の指定に際し、各年度の寄附受入額に対し、寄附募集に要した費用の額（返礼品等の調達・送料・広報・決済・事務に係る費用）の総額を5割以下とするようにとの厳しい指定基準が設けられた。寄附額に占める歳出割合が大きい送料等の見直し・改善が急務である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	サツマイモ基腐病が発生し、これまでの主力返礼品である安納芋の生産量が大幅に減少し、寄附額の伸び悩みが懸念されていたが、逆にその他の特産品や加工品を新たに追加することで、返礼品の種類が増え、結果、購入する選択肢が広がり、目標額を大幅に超えることができた。また、新たなふるさと納税サイトへの登録や、返礼品セットの組み方の工夫など、常に改善をしながら、ふるさと納税額のアップに取り組むことができた。

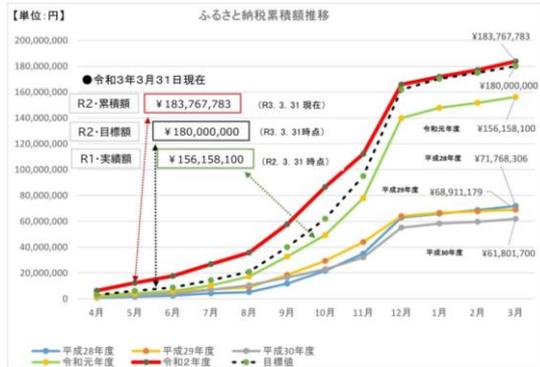
④ 改善 (Action)

2021年度方向性

1. 過去の実績を上回る寄附金額（2億200万円以上）の増額を目指す。
2. ふるさと納税寄附受付ポータルサイトやプロモーションの充実
3. 「ふるさと納税」を活用して取り組みたい事業の明確化
4. 「ふるさと納税」寄附者及び返礼品提供事業者からの問合せ等への迅速な対応
5. ふるさと納税事業に係る寄附金額及び寄附者のデータの適切な管理
6. ふるさと納税の対象となる地方団体の指定に関する返礼品の適正募集基準の順守
(指定基準を満たすため、年度内寄附受入額に対し、寄附募集に要した費用の額（返礼品等の調達・送料・広報・決済等・事務等に係る費用)の総額を5割以下とする)

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等



説明

年度当初に設定した目標額を達成し、令和2年度は最終的に183,767,783円の寄附を受け付けました。
(令和元年度実績：156,158,100円)